

提出された意見の概要及びそれに対する区の考え方

NO	意見の概要	区の考え方
前文		
1	子どもは権利の主体であることが記載されており、これに賛同する。子どもであることを理由に、子どもの意見を聞かなかったり、子どもに本当のことを教えなかったり、子どもの権利がないがしろにされるようなことがあってはならない。	前文は子どもも含め多くの人に読まれる箇所であるため、条例の趣旨が伝わりやすくなるよう、子どもは権利の主体でありその権利が保障されること、子どもをパートナーとして子どもにやさしいまちをつくっていくこと、日本は子どもの権利条約を批准していることなどを記載している。
2	子どもをパートナーとして捉え、子どもにやさしいまちづくりを行うことを宣言していることが重要である。権利が侵害されている一部の子どものためにだけこの条例があるのではなく、すべての子どもにとってやさしいまちをつくるために大人が継続的な努力をしていくことを意味するし、それがすべての人にとってやさしいまちを実現することにつながると宣言しているからである。	また、前文の一部には、子どもの権利擁護推進審議会の答申を踏まえ、子どもが読んだときに勇気づけられるよう、大人から子どもに対するメッセージを記載している。 なお、子どもが権利の主体であることは、第1段落の冒頭に記載している。
3	日本が世界の国々と子どもの権利条約を結んでいること、その精神に則って条例を制定することが明記されており、短い文章に子どもの権利保障への決意等がまとめられている。	
4	前文の主語が誰なのかが分かりづらいため、冒頭で明確に分かる構成にしてはどうか。また、大人による子どもの権利の保障という側面に偏っているようにも見受けられるため、子どもの権利の主体は子どもであることを第1段落に加筆してはどうか。	
5	子ども目線で全ての漢字にふりがなが振られている。また、子どもに理解しやすい内容になっている。	全ての漢字にふりがなが振るとともに、分かりやすい用語の使用、「です・ます調」での記載など、子どもに理解しやすい表記としている。
6	「多様な背景を持ち、それが理解されずに苦しんでいる子どももいます」との記載があるが、「理解されず」という表現は大人目線であると感じるため、「理解してもらえず」に修正してはどうか。	「理解してもらえず」という表現の方が、より子どもの立場に立ったものであると考えるが、一方で、『子どもが理解してもらいたいこと』と狭く捉えてしまう恐れがあるため、より広く捉えられる「理解されず」という表現で記載している。
第1章 総則		
2 用語の意味		
7	(3)「区民」について、「事業者」が含まれているが、「区民の役割」とは別の項目で「事業者の役割」が記載されており、この事業者と同じものなのかが分かりづらい。また、事業者とはどういうものを指すのか。	「事業者」については、「区内において事業を営んでいる人」としており、企業や商店等を指すものである。「事業者」は、「区民」に含まれるものとしているが、事業者として必要な役割について、7に記載している。
8	(4)「育ち学ぶ施設」について、無理な学校再編により劣悪な教育環境を作り出し、子どもと教師にその負担を押しつけている現状など、さらに踏み込んだ認識と記述が必要である。	「育ち学ぶ施設」については、「子どもが育ち、学ぶために利用する施設」としており、区内の学校を含むものである。 学校の役割が重要であることから、6に育ち学ぶ施設および団体の役割を記載するとともに、11に育ち学ぶ施設および団体の活動における権利の保障を記載している。
9	(6)「子どもの権利条約」について、「児童の権利に関する条約のことをいいます」との記載があるが、「児童」の語彙に違和感がある。児童は、狭義では小学生を指し、この意味で使われることが多い。他の用語はすべて「子ども」と記載されているので、「子ども」に修正してはどうか。	「児童」という用語は、小学生を指す言葉としても使用されていることから、条約の対象年齢(18歳未満)に誤解が生じないよう「子どもの権利条約」としている。 2(6)については、用語の意味として、条約の正式名称(通用している政府訳)を記載する必要があると考える。

NO	意見の概要	区の考え方
3 基本理念		
10	<p>子どもの意見等の表明が特に重要である。子どもの意見を「意見、考え、思い」と表現していることに賛同する。子どもの権利条約の原文では子どもの「意見」は「opinion」ではなく、「intention」であり、「言葉にならない思い」を表明することも重要であるとされている。</p>	<p>本条例の基本理念として、「子どもはその意見等を表明することができ、自分に関係のあることについてその意見等が尊重されること」を規定している。こうした考え方を広め、子どもの意見が尊重されるまちを目指していく。</p> <p>「意見、考え、思い」については、審議会の答申を踏まえ、言葉にならない（できない）考えや思いも含むものとしている。</p>
8 中野区子どもの権利の日		
11	<p>中野区子どもの権利の日の制定に賛同する。この日に、学校の授業の中で子どもの権利について学ぶ時間を取ってほしい。また、条例の内容等について、子どもと大人に対する普及啓発を実施してほしい。</p>	<p>本条例において、子どもの権利の日を設けて、その目的にふさわしい事業を実施していくことを考えている。学校との連携や子どもや大人に対し広く普及啓発を図るための手法を検討し、実施していく。</p>
第2章 子どもの権利の保障		
9 あらゆる場面における権利の保障		
12	<p>「権利」がどういうものなのか分かりづらいことがあるため、子どもの権利を列挙していることに賛同する。</p>	<p>あらゆる場面において特に保障される権利を9（1）に列挙するとともに、子どもの生活場面ごとに特に保障される権利を10（1）、11（1）及び12（1）に列挙している。</p>
13	<p>「家庭的な環境のもとで育つこと」との記載があるが、「家庭的な環境」とは定義が曖昧であるため、どのような環境かを明記する必要があると考える。</p> <p>また、家庭内でのDVや児童虐待が行われた場合に、「家庭」という言葉で言い逃れをされる懸念があるため、「家庭」ではなく、「安全で安心な環境」という記載に変更してはどうか。</p>	<p>「家庭的な環境」については、児童福祉法の趣旨を踏まえた表現であるが、同法においても定義されておらず、本条例において具体的に定義することは難しいと考えている。また、「安全で安心な環境」は、「家庭的な環境」の前提になるものであると考えるが、子どもがより家庭に近い環境のもとで育つことが重要であるという趣旨から規定しているものである。</p>
14	<p>「家庭的な環境のもとで育つこと」との記載があるが、「家庭的な環境」とは、ここでいう（1）①②④⑤⑥⑩が保障されている家庭のもとで育つことを意味していると思うので、①～⑩の順番を変えて①②④⑤⑥⑩を先に持ってきて「上記の①～⑥を満たす家庭的な環境のもとで育つこと」としてはどうか。</p>	
15	<p>「失敗をしてもやり直せること。そのために必要な環境が整えられること」との記載があるが、子どもの行動を大人目線で失敗と判断しているように読めるため、「自分のやりたいと思うことに何度でも取り組むことができる」に変更してほしい。</p>	<p>子ども自身が失敗したと判断した場合、あるいは他者が判断した場合の何れの場合もやり直すことができ、大人はそのための環境を整えるということを趣旨としている。子ども自身が、「失敗してもやり直せる」と思うことが重要であると考えている。</p>
16	<p>「家庭の環境、経済的な状況、社会的身分、国籍、人種、民族、文化、障害の有無、性別、性自認、性的指向等により差別をされないこと」との記載があるが、「家庭の環境」だけでは血縁家族以外の養育者と生活している子どもが見えづらく、「家庭」とは一般的には血縁家族をイメージしやすいため、「生活する場所」を追加してほしい。</p> <p>また、権利保障から取りこぼされることがないように、「等」と括弧ではなく、「疾患の有無」、「発達の違い」を追加し、具体的に示してほしい。</p>	<p>本規定については、子どもの権利条約第2条を踏まえ、差別の禁止に係るものを列記している。これらに限定されるものではないが、一方で、全てのものを列記することは難しいため、主となるものを列記する形としている。</p>
10 家庭における権利の保障		
17	<p>「家庭的な環境のもとで愛情を受けて育つこと」との記載があるが、「家庭的」とは定義が曖昧であるため、「安全で安心できる環境」に修正してほしい。</p>	<p>「安全で安心な環境」は、「家庭的な環境」の前提になるものであると考えるが、子どもがより家庭に近い環境のもとで育つことが重要であるという趣旨から規定しているものである。</p>

NO	意見の概要	区の考え方
18	「10家庭における権利の保障」と「11育ち学ぶ施設および団体の活動における権利の保障」は、共通する部分が多いため、11の内容は10にも入れるべきではないか。特に11（1）①②③④及び（2）①②③は家庭用に言い換え、追加してほしい。	本条例においては、あらゆる場面において特に保障される権利を9（1）に列挙するとともに、子どもの生活場面ごとにおいて特に保障される権利を10（1）、11（1）及び12（1）に列挙している。
11 育ち学ぶ施設および団体の活動における権利の保障		
19	「安全で安心できる環境のもとで、学び、成長すること」との記載があるが、不登校や新型コロナウイルス感染拡大に伴う一斉休校であっても、学びが保障されるために「子どもはどこにいても、安全で安心できる環境のもとで、学び、成長すること」という記載を追加してほしい。	どのような状況においても、子どもの学びが保障されることは重要であると考えており、その趣旨について9（1）に記載している。
20	小中学校及び教育委員会において、各小中学校の校則やルール等が子どもの権利の観点から妥当であるかについて、子どもの意見表明を受け、かつ尊重して、それを検証し、区や地域に対して公開する必要があると考える。	学校において、子どもの意見を踏まえた校則やルール等の見直しについては、すでに取組を進めているところであるが、本条例の趣旨を踏まえ、学校との連携を進めていきたい。
21	校則やルール等についての決定に当たっては、子どもが自分の意見を表明し、参加する機会を設けてほしい。また、公園の使用方法などについても、子どもが意見を表明する場を設けてほしい。	
22	「区は必要な取組を行うものとし、また」との記載があるが、これは特に重要であり賛同する。「区民や育ち学ぶ施設および団体で働く人や従事する人の権利保障に努めます」というように、さらに踏み込んだ表現にしてはどうか。	ご指摘の趣旨は、11（3）に含まれているものと考えている。育ち学ぶ施設および団体に対して必要な支援を行っていく。
12 地域社会における権利の保障		
23	「休む」ことも「遊ぶ」ことも、子どもたちにとって重要であり、子どもと関わる活動をする区民は、子どもが居場所を利用することができるように必要な取組を行うという内容に賛同する。	子どもにとって休んだり、学んだり、活動したりすることのできる居場所は重要であると考えており、区としても必要な支援を行っていく。
24	子どもの権利を保障するためには、子どもと直接かわる大人が安心して働き、生活できる環境が必要である。区が、ハラスメントや暴力に遭遇することなく働き続けられる労働環境の整備に向けて取り組むことを表現できると良いと考える。	事業者が、その従業員が子どもの権利を保障することができる環境を整えるよう努めることは、7（1）に記載しており、区はそれを支援していく考えである。
第3章 子どもにやさしいまちづくりの推進		
14 子ども会議		
25	子どもに関する区の計画等について、子ども会議に参加する子どもの意見等を求めることは重要であり、子ども会議の開催に賛同する。こうした機会や場があることによって、子どもたちが自分の意見を表明することを学んでいくことができる。	子どもの意見等の表明および参加の仕組みの一つとして、「子ども会議」を定期的に開催していく。
26	子ども会議は常設とし、定期的に権利の主体である子どもたちの意見を吸い上げてほしい。	
15 虐待、体罰等の防止		
27	子どもの定義が18歳未満であり、15～17歳の子どもが抱える「虐待」の実態は深刻なケースも想定される。また、保護者の貧困が虐待の要因になっていることも多い。こうしたことを踏まえたうえで、子どもに関する取り組みの推進計画を策定してほしい。	子どもの貧困の防止に総合的に取り組むことについて、17に記載している。 こうした子どもの現状を踏まえた上で、推進計画を策定し、取組を進めていく。

NO	意見の概要	区の考え方
16 いじめその他の権利の侵害の防止		
28	子どもの権利委員会、子どもの権利救済委員を常設とし、中野区からいじめが無くなるように話し合っほしい。また、いじめに関するペナルティを明記してほしい。	本条例に基づき、子どもの権利委員会、子どもの権利救済委員を設置し、いじめその他の権利の侵害の防止などの子どもの権利の保障に向けた取組を進める。 また、本条例は、区に関わる全ての人が子どもの権利の尊重の理念を持ち、それぞれの生活や活動に生かすことにより、子どもの権利の保障を目指すものであり、いじめに対する罰則規定を設けることは考えていない。
19 居場所づくり		
29	居場所づくりは重要であるが、理念だけではなく「居場所」の姿を具体的に示してほしい。大人が良かれと思い作った居場所が子どもにとっては居心地の悪いものになることが懸念される。そこで過ごす子どもたちが意見を言える場であることが重要である。	「居場所」を具体的に規定するのではなく、子どもが意見等を表明し、参加する機会を設けるとともに、その意見等を尊重しながら、居場所づくりを進めていくことが重要であると考えており、その趣旨について19(3)に記載している。
第4章 子どもに関する取組の推進および検証		
22 (仮称) 中野区子どもの権利委員会の設置		
30	子どもの権利委員会の設置に賛同する。子どもの権利が、子どもや大人にどのように認識されているかを検証し、発信していくことが必要である。	子どもの権利の保障の状況や推進計画については、第三者が調査や検討を行い、意見を述べることが重要であると考えている。調査や検討の内容について、公表し、広く発信していくことを検討していく。
第5章 子どもの権利の相談および侵害からの救済		
24 (仮称) 中野区子どもの権利救済委員の設置		
31	子どもの権利救済委員の任命について、区民の意見は反映されるのか。	救済委員は、区長の附属機関であり、区長が任命を行うものであるが、人格が高潔で、社会的人望が厚く、すぐれた識見を備えている人を任命していく考えである。
32	救済委員の設置に賛同する。救済委員の設置について、十分に広報してほしい。	子どもが必要な相談を行えるよう、救済委員及び相談窓口等について、必要な周知広報を行っていく。
その他、全般的な事項に関するもの		
33	全ての漢字にふりがなが振られており、子ども、そして誰にとっても読みやすい文章となっていることに賛同する。この文章を読むことにより、自分の権利について学び成長していくことができると思う。	様々な人が理解しやすいよう、全ての漢字にふりがなを振っている。 子ども自身が、子どもの権利を知ることは大切であると考えている。子どもの年齢や成長にあわせた普及啓発について、リーフレットの作成や学校との連携について、様々な手法を検討し、実施していく。
34	学校教育において、子どもが条例のことを学ぶ際に、学びやすいように、対象年齢別に教材を作成してほしい。	
35	「…するものとします」という語尾は主体性に欠けるため、「…します」という語尾で記載すべきである。また、「…します」という平易な表現にした方が、子どもが条例をより身近なものとして感じられると思う。	法令上「するものとする」と表現する文言を「です・ます調」に言い換えるに当たり、「するもの」として表現している。 本条例では、原則、区のみが主語となる規定については、「努めるものとします」、「努めなければなりません」といった努力義務規定よりも強い表現である「…するものとします」と規定している。
36	区の担う役割は大きいと、第2～4章などの項目において、区が果たすべき役割が具体的に記載されていることに賛同する。	子どもの権利を保障し、子どもにやさしいまちづくりを推進することが、区の役割であると考えており、その役割を果たしていく。
37	子どもの権利が侵害される場所として最も多いのは、小中学校である。授業についていけない子どもが、机に座り続けることは苦痛である。教師が一人ひとりの子どもに対し、丁寧に教える環境が必要であり、そのためには少人数学級を実現するとともに、教師の多忙化を解消することが必要である。	また、区民、育ち学ぶ施設および団体の活動を支援することを区の役割として記載しており、これを踏まえて、様々な取組を進めていく。

NO	意見の概要	区の考え方
38	子どもの7人に1人が貧困状態であると言われている。この現状を踏まえ、条例の中で対策を強化できるようにしてほしい。	虐待・体罰等の防止については15に、いじめその他の権利の侵害の防止については16に、子どもの貧困の防止については17に記載しており、本条例に基づき、取組を進めていく。
39	虐待・体罰やいじめは、直接的に子どもの権利を侵害することになるため、虐待、体罰等の防止、いじめその他の権利の侵害の防止、貧困の防止を明記していることについて、賛同する。	
40	審議会での議論や答申結果が反映されているとともに、過不足なく網羅されている。この内容で、条例制定を進めてほしい。	本条例については、審議会の答申を踏まえ、区民意見交換会等を経て、検討を進めてきたところである。条例制定後の取組の推進については、子どもの現状を踏まえた上で必要となる施策を21に規定する推進計画で定め進めていくとともに、22に規定する（仮称）中野区子どもの権利委員会において、その内容を検証していただく。
41	子どもの権利について、理想像として条例を作るだけでなく、直接取組につながる推進計画や権利委員会を設置することが重要であり、これらの内容について賛同する。また、子どもの権利を保障するためには、客観性があり、専門的見地を持つ第三者機関が必要である。	
42	素晴らしい内容の条例を制定しても、目の前にある課題に向き合わない限り、実効性のあるものにならない。	
43	子どもの権利を保障することを見える化するために、外遊びの推進とプレーパークの常設を進めてほしい。	

※ 意見の概要は、区分整理の関係から、提出された意見の分割や同趣旨の意見の統合を行っている場合がある。